

## 平成 28 年度 看護系学会等社会保険連合研究助成 研究報告要旨

### 【小児訪問看護における重症心身障がい児ケアの専門性】

一般社団法人 日本看護研究学会：泊祐子

#### 1. 研究目的

現在の訪問看護の算定基準である訪問時間では換算できないケア内容、家族支援のサービスの実態を明らかにする。

#### 2. 研究方法 研究の対象および方法

九州、関西、関東の小児専門の訪問看護 St. 5 か所に面接による聞き取りを行った。

質問項目は、①利用者の人数と利用頻度、具体的な利用理由や方法、②診療報酬に当てはまらない対象児の年齢と重症度、③長時間利用の理由、⑤運営上の工夫、運営上の課題等である。

分析は、面接内容のテープを聞き、質問項目に合わせて整理記述した。

#### 3 結果

対象の訪問看護 St. の概要は、訪問看護 St. のみでの運営は 1 か所で、それ以外は複数の事業を同一施設内で行っていた。身体介護、児童発達支援、計画相談、訪問リハビリ、有料の移送サービスなど、在宅で生活していくために必要なサービスの大半を担っており、また同県内の訪問看護師の育成、訪問看護 St. の開設や困った時の相談機能の役割も果たしていた。レスパイトを目的の施設もあった。

次に、施設管理者から語られた記述内容を「小児への支援」「家族への支援」「地域連携」「運営上の特徴」の 4 つの視点で分析した。カテゴリは[ ]、サブカテゴリは《 》で示す。

その結果、「小児への支援」は、ケアの複雑性に対する支援、成長・発達への支援、緊急時への支援に分けられた。ケアの複雑性に対する支援内容には、[医療的ケアの複雑さと人員][介助の技術に関する事]の 2 つのカテゴリに《呼吸器装着時のケア》《時間を要す》《ケアの中身》《入浴人数》の 4 つのサブカテゴリが抽出された。成長・発達への支援内容には、[成長とともに変化する支援内容]の 1 つのカテゴリに《成長発達》《18 歳以降》の 2 つのサブカテゴリが抽出された。緊急時の支援内容には、[子どもの急変]の 1 つのカテゴリに《同行訪問・病院等への出向き》《キャンセル》《緊急訪問》の 3 つのサブカテゴリが抽出された

「家族への支援」には、家族不在中の看護と家族のエンパワメントの 2 つに分けられた。家族不在中の看護には、[予定の用事][緊急な用事]の 2 つのカテゴリがあり、[予定の用事]は、《家族の用事・きょうだいの行事等》《レスパイト》《運営上の工夫》の 3 つのサブカテゴリ、[緊急な用事]は、《家族の事情、きょうだいの病気》と《本人の体調不調》が抽出された。

家族のエンパワメントには、[養育者の指導][家族生活の見通し]の 2 つのカテゴリがあり、[養育者への指導]には《技術の習得》《体調不良時・緊急時のへの対応指導》が、[家族の生活の見通し]には《成長に関する指導・助言》《母親支援》のサブカテゴリが抽出された。

「地域連携」には、[機関との連携][技術・知識の向上、情報共有][コスト]の 3 つのカテゴリがあった。[機関との連携]では、《医師》《看護師》《リハビリ》《他職種》《事業の組み合わせ》、[技術・知識の向上]では、《研修会・会議等に参加》《病院に出向いて学習》《リハビリに同行》《ヘルパーへの技術指導》《2 名で訪問》《ほかの St の見学》、[コスト]では、《施設間の加算の取り方》《訪問につながらなかった》《同行訪問》《備品の持ち出し》《長時間訪問》の合わせての 16 サブカテゴリが抽出された。

「運営上の特徴」には、[複数の事業が同一施設内にある][スタッフを固定化しない兼務する][事業所の方針][スタッフが一人前になるまでの期間][ステーションの役割・特徴][要望]の 6 つのカテゴリが抽出された。[複数の事業が同一施設内にある]には《複数のサービスの組み合わせを調整しながら訪問の曜日を決める》《他の事業との組み合わせ》など 8 つのサブカテゴリが抽出された。

[スタッフを固定化しない兼務する]には《施設管理者の思い》《スタッフの活動方法》などの 3 つのサブカテゴリが抽出された。[事業所の方針]には、《交通費はとらない》《呼吸器の子は送迎している》《ショートスティとの組み合わせ》など 10 のサブカテゴリが抽出された。

#### 3. 考察

小児を専門にする訪問看護 St は、診療報酬に合わない支援が必要な状況が予測できているため、あるいはその必要性から、複数の事業を展開していると思われた。